

令和6年度 指定管理者制度モニタリング評価表（令和5年度末時点）

1 施設概要

(1) 基本的事項

施設名	尼崎市立社会体育施設	施設所管課	教育委員会事務局 スポーツ推進課
施設住所	西御園町93番地の2 ほか	竣工	S51.7(築満47年) ほか
設置目的	スポーツを愛好する市民に対するスポーツの実技指導、研修等を通じて、スポーツの推進を図るため		
主な事業内容	施設の管理・運営、維持管理業務、スポーツ教室等開催事業		
指定管理者名	公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団	指定期間	自 R4.4.1 至 R9.3.31

(2) 施設の政策的な特性に係る事項

施設分類	A(施設維持管理に加え、市の政策目的に沿った取組を、市と協働で展開していく施設)
指定管理者に主として期待される事項	☒ 専門的なノウハウを生かした市の施策目的に資する事業実施 ☒ 効率的な施設維持管理運営 ☐ 団体等の担い手としての成長 ☐ その他()

3 市と指定管理者が年度当初に共有した目標及び達成状況等の評価

施設目標の達成に向けた取組（指定事業の効果的な実施、自主的な取組の実施）

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）

サンビックでは昨年度の改修工事後予定通り供用を開始しており、今年度は長寿命化工事等における長期間の休館等を予定していないため、利用者の増加を目指すとともに、効率的かつ利用者満足度の高い施設運営を行う。また、指導者派遣等の自主事業を積極的に行い、本市スポーツ推進を図る

実施結果

園田体育館にて空調工事に係る5週間の休館があったが、施設利用人数は昨年と比較し大幅に増加する中、アンケートでは高い利用者満足度を維持しており、効果的な運営を行ったと言える。（指標①、②）

(参考) 有効性に関する指標の設定及びその状況

有効性

指標①：利用者アンケートのうち、接遇に関する項目についての「満足」以上の割合（単位：％）

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	-	-	-	-	-	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
実績	-	-	-	-	-	95.4%	98.3%	98.6%			
達成度	-	-	-	-	-	106%	109%	110%			
評価	-	-	-	-	-	◎	◎	◎			

指標②：利用者アンケートのうち、事業に関する項目についての「満足」以上の割合（単位：％）

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
目標	-	-	-	-	-	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
実績	-	-	-	-	-	95.9%	95.8%	95.6%			
達成度	-	-	-	-	-	107%	106%	106%			
評価	-	-	-	-	-	◎	◎	◎			

◎目標を大きく上回った/上限値に近い実績で推移している、○目標を（概ね）達成した、△目標未達（事情あり）、×目標未達（事情なし）

①決められた指定管理料内で、市民サービスが維持・向上されているか

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）
施設が老朽化し修繕を要する箇所が多い中で、これまで以上に経費節減に努め、市民サービスの向上に直結する支出を確保していく。

実施結果及び評価	光熱水費や物価高騰の影響が大きくなる中、計画的な節電等によって光熱水費の上昇を抑えた他、修繕箇所の厳選や必要購入備品の厳選といった経費削減に努め、予算（物件費）を大きく抑えた上で質の高い運営を行った。	◎
----------	--	---

市民サービスが、◎大幅に向上した、○維持・向上した、△低下した（特別な事情あり）、×低下した（事情なし）
②効率性と環境に配慮した施設管理とを両立できているか

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）
日常業務の中でエコオフィスづくり指針に基づく取組を行うよう意識醸成に努めていく。

実施結果及び評価	グリーン購入法適合商品を優先的に購入しているほか、エコオフィスづくり指針に定める半数以上の項目について取組を行った。前年同月比で使用量の削減を達成するなど、環境に配慮しながら施設運営を行った。	◎
----------	--	---

◎嵩水準で両立している、○両立している、△両立しているとは言いえない、×環境への配慮が不足している
（参考）経費の状況（単位：円）

収入				支出				
項目	項目	予算額	決算額	差引	項目	予算額	決算額	差引
指定管理料	人件費	168,900,000	168,092,088	-807,912	人件費	174,337,000	177,780,640	-3,443,640
	物件費	53,545,220	53,545,220	0	物件費	53,324,000	52,464,577	859,423
	光熱水費	28,996,591	28,996,591	0	光熱水費	37,694,000	23,753,705	13,940,295
	収入計	251,441,811	250,633,899	-807,912	支出計	265,355,000	253,998,922	11,356,078

2 指定期間全体を通じての目標・実績

(1) 指定管理者の選定及び指定に当たって重視された事項（選定委員会での主な意見又は市の意思決定理由）

重視された事項	スポーツ推進の中核的な役割の担い手として、子どもの体力向上や高齢者の介護予防など、本市が抱える今日的な課題を把握し、その解決に向けて、市と一体となって取組を進めていくこと。
指定管理者自身が設定した目標	1 法令を厳守し、平等かつ公平な管理運営、2 利用者ニーズや専門的知識を反映した管理運営、3 経費削減を目指した効率的・効果的な事業運営、

(2) 市と指定管理者の協議によって設定する目標

施設のありたい姿						
指標	施設利用者数(人)（基準値:令和3年度実績 345,060人、目標値:令和9年度 364,000人）					
指定期間	R4	R5	R6	R7	R8	達成状況の評価
目標値	348,217	348,217	351,373	354,530	360,843	園田体育館で5週間の休館があったものの、昨年度を大きく上回り目標を達成した。
実績値	335,781	371,598				

適正性	法令遵守	
	施設の管理運営や設備点検、訓練等を適正に行っているか	適正
	貸与備品等について台帳を整備し、適切に管理しているか	適正
	公文書管理条例の趣旨に則り、文書を管理しているか。協議録等、必要な文書を作成しているか	適正
	個人情報保護の確保に、平等かつ公平な管理運営に係るルールを遵守しているか	適正
	公共調達基本条例、暴力団排除条例、その他の法令は遵守されているか	適正
	施設の経営状況	
	収支及びその結果報告や変更時の報告・連絡・相談が適切・適正にされているか	適正
	指定管理者自身の経営状況は健全か	適正
	危機管理－事故防止の安全対策や防犯・防災対策が適切にとられているか	
パートナーシップ	災害時の対応について、市との協議・共有が図られているか	適正
	災害時や緊急時のマニュアルを作成し、定期的に訓練等を行っているか	適正
	災害時や緊急時の対応責任者、責任体制は整備されているか	適正
	履行状況－提案時及び年度当初の計画等のとりに業務を行ったか	
	年度事業計画書における計画どおりに業務が遂行されたか	適正
	選定時の提案内容が実施されているか	適正
	業務マニュアルを定めるなど、安定的に履行できるよう取り組んでいるか	適正
	関係性の構築	
	令和5年度は大規模改修やふれあい体育館の建築が続く中、各施設利用者への影響が最小限となるよう、双方緊密に連携を取りながら事業を実施した。指定管理者とのパートナーシップは引き続き重視しており、改まった場を設けずとも日常的に意見交換が取れるような関係性の構築に取り組んだ。	
	協働の状況（グループAは協働の相乗効果の視点、グループBはパートナーシップを踏まえた施設管理業務の状況）	

施設の維持管理運営にあたり、各現場の状況を共有し修繕の優先度等を共に検討しながら臨機応変に対応した。また立花で大規模改修、武庫で健康ふれあい体育館の建築が進行する中で、密に連携を取りながら現場のニーズや意見を吸い上げ、より利用者満足度の高い施設となるよう設計等に反映させた。

指定管理者の考える成果と課題及びより良い施設維持管理に向けた市への提案事項（総括）
 気候変動や長引く物価高騰の影響下で市民サービスを低下させない環境づくりとサービス提供を心掛け、利用者満足度の向上を図っている。利用者アンケートにも多数見受けられる、施設の老朽化に伴う施設の改修工事等は、市担当部局と連携を密にし工事に伴うサービス停止期間などを最小限に止められるように調整を含め、引き続き主体的に関わっていく。

また、令和5年度に園田体育館の長寿命化改修工事の一部前倒しに伴う、ロビー部分の空調機械設備の一部が修繕された。複合施設のため体育館に關係しない部分であっても安全確保のために修繕工事期間は休館を余儀なくされる。また、サンビックの長寿命化工事から漏れた部分の経年劣化修繕が必要な個所の修繕費の減額は管理運営をするに当たり、協議を行う必要がある。

市を考える成果と課題及びより良い施設維持管理に向けた指定管理者への提案事項（総括）
 物価高騰や施設改修、新施設の建築などが続いている中、高い利用者満足度を確保した上で目標指標としている施設利用者人数を大きく増やしており、効率的で効果的な施設運営がなされたことは評価に値する。また、フレイル予防等の公益性の高い自主事業についても、本市各施設と連携しながら展開しており、受講者も増加する等の成果を上げており、信頼感や安心感は一層増している。

現在子どもの体力向上や高齢者の介護予防等の継続的な事業に加え、中学校部活動の地域移行についてモデルケースの評価、検証を行っており、前例がない中での事業推進が求められている。そうした状況の中、強固なパートナーシップの下、施設管理と一体的に新たなスポーツ施策を検討推進できる現体制は本市の強みとなっている。

双方の協議を踏まえた協議の結果及び今後の取組の方向性（単年度及び指定期間中の目標を踏まえて記載）
 今後も引き続き利用者の立場に立った運営を行い、利用者数の増加及び満足度の維持・向上を目指す。施設の改修工事や新施設の建築等ハード整備が続いていくが、利用者への影響が最小限となるよう連携し取り組んでいく。また、部活動の地域移行や時世に合わせた事業の見直しと効率化等、パートナーとして双方で協議の上推進すべき内容が増えていくことから、より密で細やかな連携体制の構築に取り組む。大規模改修工事の対象外となった箇所等で、今後修繕等が必要になることが見込まれる箇所については、予防的な視点も取り入れながら計画を立て、これをもとに引き続き財政部局と協議・調整を行う。